

発行
明治大学校友会
西東京地域支部
事務局
西東京市芝久保町
2-1-21 (有賀)
TEL 042-467-9815

明大校友会西東京だより

第5号

支部活動にご参加を



西東京地域支部長
S三年・経営卒
有賀 茂

西東京地域支部が発足して五年目を迎えました。

支部発足当初は、総会、懇親会、日帰りバス旅行程度の行事であったが、会員(現在八〇名)が増えるに伴い新年会の開催や、ハイキング、古都の散策など徐々に活動を広げ、会員の交流を計っている。

かねてより校友会が推進している「明治大学教育振

興協力資金」の募集についても三九名の会員から九〇万円余の協力をいただくなど、母校の教育研究を支援している。今後も募金活動が継続されますのでご理解

とご協力をお願いしたい。毎年開催されている全国校友会大会(今回第四五回)が九月二七日(日)富山市で開催されるので校友の参加が期待されている。

平成二一年度地域支部

定期総会開催

平成二一五年五月三十一日(日)

平成二一年度定期総会が五月三十一日無休舎にて開催され、来賓六名を含め三五名が出席。野口副支部長の司会により、中井副支部長の開会挨拶、有賀支部長の挨拶、その後支部長を議長に選出し議事に移りました。

がなされました。引き続き垂水副幹事長、吉田会計幹事より「平成二一年度事業計画案、予算案」が提案され、最後に議長より藤田幹事、小山幹事、高橋幹事、計三名の退任と新役員櫻井幹事と丸岡(百)幹事の副支部長就任、その他の全役員再任等の改選案が上程され、各々可決されました。来賓代表として大沢北地区、

当地域支部からも毎年若干名が参加し、校友会活動を通じ母校への支援を行っている。

日本経済も漸く回復の兆しが見えたとはいえ、日常生活に浸透するまでには至っていませんが、会員各位におかれてはどうぞご健勝にてご活躍され、支部活動にご参加いただき親睦と友情を深め、母校の発展のためご協力くださるようお願いいたします。



地域支部長よりユーモア溢れる温かいご祝辞を頂き、丸岡(百)副支部長の閉会挨拶で無事終了。その後、会場を一階食堂に移し、江原副支部長の進行で懇親会をスタート。来賓の林北部支部長の挨拶、宮崎多摩支部長の乾杯に続き、来賓の方々、若き新会員菅原(日一五年商卒)、櫻井(日六年商卒)両名の紹介等と共にカラオケも入り会場内の先輩、後輩の賑やかな交流とともに、意気盛んな明大健児の集いとなり、楽しく有意義なひとときを共有することができました。恒例の武藤幹事による、全員肩を組んでの校歌熱唱、最後に丸岡副支部長の閉会の挨拶で、予定よりややオーバーしてお開きとなりました。



全国支部長・

地域支部長

本部員懇談会

七月二十五日(土)大学アカデミーコモンに、二〇〇余名が出席し開催された。

懇談会で、高村校友課長の開会挨拶、村山名誉会長の青木校友会長の挨拶。長堀理事長、納谷学長の祝辞。校友会への大口寄附の個人と団体への感謝状の贈呈が行なわれた。

報告事項に入り、「教育振興協力資金」の募金状況等について報告があり、七月一七日現在約八億円の協力を得ている。今後も目標達成に向け推進することに決定した。

この他、二〇〇八年度決算、二〇〇九年度予算等関係書類について承認した。

引き続き、納谷学長の「世界に開かれた大学を目指す」というテーマに講演があり、大学は「教育」「研究」「社会貢献」という三つの役割を担っている。これからの日本と世界を背負う人材を育成することが二一世紀の高等教育の目標であるとのことであった。

明治大学校友会 代議員総会開催

七月二十六日(日)大学リパティールホールにおいて「代議員総会」が三五〇余名が出席して開催された。

総会は、藤原副会長の開会の辞に続き、青木校友会長、村山校友会名誉会長の挨拶。長堀理事長、納谷学長の祝辞。議長団の選出、運営委員会を選任し議事に入り報告事項として、二〇〇八年度会務報告、「明治大学教育振興協力資金」の募金状況などの報告がなされた。

審議事項として、二〇〇八年度決算、二〇〇九年度事業計画、同予算他三件について審議決定した。

任期満了に伴う会長の選任を行い、一七年余の永い間会長として会の発展のためご尽力いただいた青木会長の勇退を認め、新会長に「向殿政男」氏(理工学部教授・工学博士)が選任された。

副会長には玉井宏夫東京都南部支部長他一五名が会長より指名された。

続いて、親子孫三代卒業生二組六名が表彰された。最後に九月二七日(日)開催される全国校友富山大大会及び来年開催の山形大会のアピールがあり閉会した。

鎌倉へ行ってきました

第二回、地域支部主催のハイキングが一月二九日実施されました。

目的地は「古都鎌倉」参加者は男性九名、女性一三名でにぎやかです。

北鎌倉駅で全員が揃い、まず鎌倉五山第一位の建長寺を拝礼し、方丈の横から天園ハイキングコース(鎌倉アルプスの別名あり)へ。長い階段を上って半僧坊でひと休み、小さなアップダウンがあつて紅葉谷へ。前日の雨で洗われた樹々はまさに紅葉のまっさかりです。この美しさにあちこちでため息まじりの歓声があがっていました。



当をみんなで交換したり和やかなひとときでした。

瑞泉寺(鎌倉公方四代の墓所として栄えた古刹)から鎌倉宮、ここで花嫁さんの姿を間近かで拝見、数十年前(?)前の我が身を重ねて思わずニコリしました。八幡宮を通り抜け「江の電」に乗り長谷寺へ、阿弥陀堂、観音堂など堂宇の裏

S三二年・法学部卒
丸岡百合江

は眺望散策路です。相模湾と鎌倉の市街地の眺めは見事でした。

暮色がひろがり長谷寺に明かりがつき、お寺はライトアップされました。その見事さを後を振り返りながら帰途につききました。

帰りの車中では「大仏さまも見なかったネ」「弁当持参よりおいしいもの食べたかったネ」「江ノ島も行きたいネ」など話は尽きません。ほんとうに楽しい一日でした。お疲れさま!

「花紋折りの美しさを囲む三人の友情展」を終えて

S三四年・文大院卒
中沢千枝子

平成二年七月二日(火)七月二六日(日)二日の一週間、成田生涯学習市民ギャラリー(ギャラリーな

第3回 日帰りバスツアー

- ◆出発日: 10月22日(木)
- ◆対象: 会員・家族及び会員の友人
- ◆定員: 25名(最少催行人員20名)、定員超過時は補欠になります。
- ◆参加費(昼食付): 会員&家族9,000円・友人10,000円
- ◆申込期間・申込先: 9月2日(水)~10日(木)、ただし、7~9日を除く集合場所と参加者名をお知らせください。後日、地域担当役員が振込用紙をお届けします。
- 電話 423-6822 (13:00~17:00)
- FAX 423-6822 (11:00~17:00) 担当: 垂水(タルミ)
- ◆行程: 集合場所は西東京郵便局前7:50または保谷庁舎前8:10 ※タオルは必ず持参してください。
- ※「潮騒の湯」は大洗サンビーチを目前に露天風呂から見下ろす大平洋は雄大です。
- ※「那珂湊お魚市場」は新鮮な魚介類を格安な価格で販売する量販店街として人気があります。



深秋の鎌倉

第3回 ハイキングのお知らせ

- ◆日時: 平成21年11月1日(日)
- ◆集合場所: 田無駅改札口7時30分、または御岳駅9時集合
- ◆行き先: 御岳山と御岳溪谷
- 御岳は奥多摩湖と共に奥多摩を代表する観光地で、特に新緑から紅葉の秋にかけて多くの人々が訪れます。
- 御岳山の山頂には、二千年の歴史をもつ由緒ある御岳神社があり、その神社の周辺には30軒程の宿坊が点在しております。

(ごみ)に於いて、今回は、書・漆芸・花紋折りとジャンルの異なる三人の作品展を試みまし。

結構、広い会場でしたが調和よく展示することができ、来場者からも好評をいただきました。

期間中は天候不順に見舞われた日もありましたが、その割には地元の方々をはじめ成田市外からもおいでいただき、お陰様で好評のうちを終ることができて一週間、毎日成田まで通った甲斐がありました。



S三二年・工学部卒
野口 清次

去る六月二〇日にロードショーとして封切られたこの映画を登山には些か関心を持つ私は早々に足を運びました。この映画の木村大監督は、故黒沢明監督の許で「隠し砦の三悪人」「用心棒」等のアクション映画の撮影助手を務めた後、「八甲田山」「復活の日」「鉄道員」等々のカメラマンとして活躍。今回の五〇本目の節目の作品は新田次郎の実話に基づく小説「点の記」が原作で監督自身メガホンを片手に撮影し、且つバックの音楽も自らクラシックの名曲を選ぶ念の入れ方だったそうです。

今から百年前の時代では、観岳は、前人未踏の人を寄せ付けぬ険しい針の山、死の山、と恐れられていた山であり、しかも気温は氷点下四〇度の厳しい季節に、二組の登山隊が初の登頂に挑戦するという正に熾烈なバトルを繰り広げる一大ドラマです。

一方の相手は日本地図の最後の空白地を埋めるべく軍部から特命で派遣された測量隊、片や設立して日浅い山岳会との先陣争いの状況をリアルに表現している。行動を開始してから一時厳しい環境下での成功を不安視する測量隊長を激励する妻、そして実跡と豊富な経験を持ち、高く信頼されている案内人を擁し、再出発する。

突然の雪崩に巻き込まれ全員が九死に一生を得、猛吹雪に襲われ進路を見失った奇しくも雷鳥の動きを見つ

けた案内人の気転で難を逃れたり幾多の苦難を乗り越え遂に山頂を制覇し、互いに感涙し労をねぎらう。

この光景を後続の山岳会員が目にし、即座にライバルに祝福の手旗信号を送る。以上がこの映画の概略ですが、今日の登山人口の増加に伴い安易な気持ちでの登山者へ警告を発している面もあるような気がします。プロを除く一般登山愛好者の留意すべきことは、先般の大雪山系の遭難事故が明示している防寒対策、計画性、山の固有性の認識、何れの面を考へても安易過ぎると考えます。私自身も十二分に噛み締めねばと思いました。

趣味の「コーナー」俳句

S三四年商学部卒
江原 弘泰

趣味の俳句で最近の入選作品二点をご披露いたします。

一、姫君を抱えて行きし 菊師かな

日比谷公園の菊花展を親に行った折、大河ドラマ「篤姫」が展示してありたまたま製作者の菊師が「姫」を横抱きにして移動中に出会い、直感的に句想が浮かび俳句手帖に記録した次第です。

この句は毎日新聞社で年一回主催している「第一二回毎日俳句大賞二〇〇九年度作品展」に応募した一句で秀逸として入選したもので、発想の意外性を高く評価され高名な金子兜太、大峯あきら、倉田敏文諸先生のご推薦をいただきました。二、地蔵洗う水光りけり 日脚(ひあし) 伸ぶ

募集

西東京市在住、在職者で当地域支部未加入の校友をご紹介ください。現在の会員は約八〇名ですが地域支部の活性化のためにも会員の増員にぜひ、ご協力をお願いします。連絡先 四六七一九八一五 地域支部長 有賀 茂

編集後記

▲リクルートで高校三年生を対象にした志願大学の人気を発表しました。関東地区の一番人気は明大で、昨年度一位の早大は二位。一都二府一四県の高校生約一万人の回答によります。明大は都心にあり、校舎も立派。スポーツも強いなど理由は多々ありますが、卒業生の団結力、特に校友会の充実ぶりも、人気の一つの理由であると思いませんか!